

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 6 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部こども青少年課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 1 (直通)				
開催日時		平成 2 8 年 3 月 3 日 (木) 午後 7 時から 8 時まで				
開催場所		けやき会館 2 階 大研修室				
出席者	委員	8 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 0 人 (こども育成部長、他 9 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 こども育成部長あいさつ 3 議 題 (1) 小規模保育事業所の認可について 4 そ の 他 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 こども育成部長あいさつ

3 議題

(1) 小規模保育事業所の認可について

担当課より、資料に基づき小規模保育事業所の認可について、説明し、質疑の後、了承された。

設置経営主体は株式会社だが、認定保育室と今回の小規模保育事業所のほかに子どもに関わる事業を行っているのか。

現状では認定保育室のみと承知をしている。

小規模保育事業所に限らないが保育内容等については、保育事業を営む運営法人等が保育の中で実現したい特色やポイントを明記するように指導等を行ってほしい。

小規模保育事業所には保育士の配置基準などの違いによりA型とB型があるが、すでに所在地である bono にはA型の小規模保育事業所が運営されているため、保護者は区別がつかないのではないかと思うが、保護者が施設を選択するにあたってどのような説明を行っているのか。

利用申し込みの時にA型とB型の違いは説明をしている。

連携園の設定はされているようだが、受け入れる枠は確保されているのか。

全員分は確保されていない。現状では、幼稚園を利用される方もいるので、一定程度の枠を設けていただくことになると考えている。bono 周辺は小規模保育事業所も多く、3歳児以上の受け皿を探すのが大変な状況である。

谷口保育園の定員を見直して3歳児の枠を多少設けている。小規模保育事業所と連携園の保育内容が一致するような連携施設を目指していかなければいけないが、国も小規模保育事業所と連携園との人事交流のようなことも打出してきているので、今後、関係機関と相談をさせていただきながら、検討していきたいと考えている。

小規模保育事業を評価していくには日が浅い面もあるが、保護者のコミュニケーションを取るにはいい面もある。これからも家庭的な良さが保てるように指導していただければと思う。

相模原市としては、小規模保育事業所などが開設したときには、保育士経験者や保育課の保育士が巡回して支援を行っており、その中で課題が見えてくればきちんと指導をしていく。

3歳児以降の受け皿については、周辺幼稚園を含めた様々な保育資源を活用していく必要があると思う。

連携施設でないところに行ったときに、どのように子どもの引継ぎをしていくかは課題だと思っている。受け入れる側と課題認識をもって、きちんとした繋がりが持てるような保育を目指していく必要があると思う。

発達課題も意識せざるを得なくなるので、子どもの発達等を再構成しながら保育内容を充実させることも必要になってくると思う。

狭いところでできていた事が、急に広い保育所に行くようになるとできなくなることがあると思うので、心理面のフォローを受け入れ側にも繋げていくことが必要だと思っている。

これだけ保育士不足の中で、資格のある人を確保することができるのは待遇がいいからなのか。

比較的駅の近くの小規模保育事業所は、保育士が確保しやすいと聞いている。

相模大野地区にはもう少し保育施設が欲しいという状況なのか。

大野南地区は保育需要が高いので、ある程度の量を確保できる認可保育所の設置を目指しつつ、今回のような既存施設を改修すれば安くできるので、そのようなものも有効に活用したいと考えている。

これだけ小規模保育事業所がこの地域に集中してしまうと、園庭の代替地としている公園の奪い合いになってしまう。近くにあるとはいえ、そこに何園も利用すると園児総数に対して公園が小さくなり過ぎてしまうのではないか。

相模大野地区はそのような傾向にある。

相模大野駅周辺はビルが多いので、ビルの中で過ごす時間が長いほど、外で開放感を得ることのできる公園は大切なものだと思う。そのあたりをもう少し考えていただければと思う。

保育所が公園に園庭としての機能を持たせると、当然、限界はあるので、都市型の保育であれば、屋上の園庭化などで確保できるのではないか。

こうした待機児童の問題は親側の都合で論議されてしまうが、本当であれば、小さい子どもが長時間預けられなくても、生活が成り立つような社会を作る努力をしていかないと、結局、しわ寄せが子どもの育ちにきてしまう。やはり長時間預けているお子さんを見ていると、申し訳ないが、落ち着きがないとか、いろいろなところで我慢しているのが見えてしまうので、働きたいお母さんのニーズはもちろんだが、その子にとって一生の最初の3年間はそこしかないのだから、安心感をもって女性の方が働けるような社会を最終的には目指していかないと数合わせではないと思う。

現実的には生活ができなくて働かなくてはいけないという方もかなりいると思う。

そこがやっぱり生活保障の最低ラインを上げていくとか、子どもの貧困がここ20年で倍増したというニュースをやってしたが、子育て家庭が少なくてもお金の心配をしないで生活できるような社会を作らないとなかなか抜け出せないと思う。

4 その他

- ・ 保育所運営法人選考基準の見直し(案)について、資料に基づき、担当課から説明を行った。
- ・ 現地視察の参加については任意とし、実施にあたっては、来年度の早い時期の分科会開催時に併せて実施することとした。現地視察は14時から15時の間で、分科会は16時又は17時から開催することで日程を含めて事務局に一任された。

5 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成28年3月3日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠席
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	いわもと つとむ 岩本 勉	相模原市幼稚園協会		出席
5	ひらの ひろこ 平野 裕子	相模原市母子寡婦福祉協議会		欠席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科会長	出席
7	ふくだ すみこ 福田 須美子	相模女子大学名誉教授	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
10	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		欠席
11	いまい かつあき 今井 勝明	相模原市立小学校長会		欠席
12	なかにし ふみお 中西 文夫	相模原市立中学校長会		欠席